

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス DOLPHINE教室		
○保護者評価実施期間	2025年7月14日		～ 2025年7月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年7月14日		～ 2025年7月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年7月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職員の配置、看護師の配置により、医療的ケア児童が利用できる。また、5領域を意識した活動を重視している。	医療的ケア児童と合同でできる活動を立案、みんなが役割や目的をもって活動できるよう工夫している 感覚統合を意識した活動の立案 活動を通して順序だてて考える力、見通しを持てる力を付けていく 人気の活動は毎月取り入れるなど。	成長に合わせた対応を検討していく
2	集団で活動できるよう、個別に対応している。その中でも、言語表出できない児童について、自己決定しやすいように選択肢を設け関わっている。	選択肢は視覚支援をもちいて提示。 言語表出が難しい児童に関しては、代弁していく。また、言語表現のバリエーションを増やせるように支援している。 共感と承認をわすれない	自立課題の充実 SSTを通じてルールやマナーの学びの機会の提供
3	活動内容に応じて、近隣の体育館や公民館、スポーツセンターなどを借りるなど、地域資源を活用して支援を実施している 障がい者アートやかまぼこ板アートに作品を応募し観覧に出かけている	公共施設を使用することで、社会性や協調性を学ぶ機会としている 広い場所で子供たちが思いきり体を動かせる環境を整える 運動や創作活動を通して、多くの人と関わることの楽しさを学ぶ	公共機関の使用方法など子供たちと一緒に考える機会を設ける アートや運動が余暇へのつながりになるように工夫していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内のスペースの問題。狭いため効率の良い業務が難しい。医療的ケア児等の安静のスペースやクールダウンの場所を常に確保することが難しい。	施設の広さに限界を感じる	カーテンや衝立、段ボールハウスで個別のスペースを確保している
2	人員基準は満たしているが、個別サポート加算がついているなど、個別での対応を必要とする児童も多いため、適切に対応できているとは言い難い	増員 標準化されたフォーマットの活用	稼働率の維持向上により経営の安定を図る。 担当や役割を話し合い、環境を整え安全に活動できるようにしている。 標準化されたフォーマットを使用し、適切にアセスメントされることで、個人差なく支援にあたれるようにしていく。
3	家族間や同世代との交流の機会が十分もてていない	参加しにくい(開催するも参加者が少ない)	参加しやすい方法やイベントを検討していく必要あり。 市などが開催するイベントや研修への参加 ペアレントメンターさんに協力を得て交流会の開催を検討